



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月6日

上場会社名 株式会社シーボン

上場取引所 東

コード番号 4926 URL <https://www.cbon.co.jp/company/>

代表者 （役職名）代表取締役社長 執行役員 （氏名）崎山 一弘

問合せ先責任者 （役職名）執行役員 管理本部責任者 （氏名）松本 裕右 TEL 03-3404-7501

半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 2024年11月29日

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年3月期中間期	4,311	△1.7	△11	—	△12	—	△61	—
2024年3月期中間期	4,386	2.1	111	—	112	—	69	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 △49百万円（－％） 2024年3月期中間期 65百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△14.28	—
2024年3月期中間期	16.28	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年3月期中間期	8,526	5,567	65.3
2024年3月期	8,808	5,659	64.2

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 5,564百万円 2024年3月期 5,656百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
2025年3月期	—	10.00			
2025年3月期（予想）			—	10.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	9,173	7.9	378	1185.9	380	764.0	223	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社天然酵母研究所、除外 1社 (社名)
株式会社天然酵母研究所を2024年5月17日に設立し、当中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	4,281,200株	2024年3月期	4,281,200株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	689株	2024年3月期	689株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	4,280,511株	2024年3月期中間期	4,280,561株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、P. 4「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足資料の入手方法)

当社は、2024年11月28日 (木) に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会の資料については、開催後速やかに当社ホームページへ掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結貸借対照表に関する注記)	9
(中間連結損益計算書に関する注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における日本国内の経済環境は、企業の設備投資の増加等も見込まれ、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、最低賃金の全国加重平均額の引上げ率が5%を超え、人件費の上昇が予想されるほか、エネルギー価格の上昇等により、企業が製品へコスト転嫁することが予測されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

こうした経営環境の中、当社グループは、2024年3月期からスタートした中期経営計画（2024年3月期から2026年3月期）の2年目として、「製品価値向上」「サロン価値向上」「新しい価値の創造」という3つの重点課題を掲げ、再成長を目指しております。

中期経営計画の策定と合わせ、「素肌と対話する」共奏美容^{*1}をコンセプトに「60th Anniversary プロジェクト」を始動し、段階的に製品のリニューアル、サロンの改装、サロンで接客するフェイシャリストの知識・技術・サービスの向上を進めております。2026年の創業60周年に向けて、サステナブルな社会に貢献する企業を目指してまいります。

当該ブランディングプロジェクトに伴い、2023年11月に新たなPhilosophyと新コーポレートロゴを、2024年6月には新たなブランドコンセプト及びビジュアルを発表いたしました。この新たなブランドコンセプトに則り、ブランドサイトやコーポレートサイトを刷新したほか、サロンの内装も順次リニューアルを行っております。加えて、ロングセラー製品の高機能クレンジングクリーム“トリートメント マセ”をはじめとした、当社の人気クレンジング・洗顔料の8品種を7月1日にリニューアル発売いたしました。合わせて、9月1日よりサロンで働くフェイシャリストの制服も新たにリニューアルいたしました。この新しい制服は、従業員の声を反映し、既存のワンピーススタイルに加え、パンツスタイルのセパレートタイプも採用しており、さまざまな世代、ライフステージに対応できるデザイン・スタイルで、社員一人ひとりが自分らしく輝けることを目指しております。

また、2022年2月に「六本木本社ビル「シーボン クイーンビル」建替えに関するお知らせ」のリリースにて開示済みの通り、建替え工事を行ってまいりました六本木本社ビルが、2024年8月に竣工し、2024年9月に本社機能を移転いたしました。引き続きさらなる本社機能の効率化を進め収益力強化に取り組むとともに、シーボンブランドの認知度向上、ブランド力強化に取り組んでまいります。

直営店舗に関しては、当中間連結会計期間も昨年度に引き続き、新規顧客の拡大及びロイヤルカスタマーの増加に重点を置き、施策を実施してまいりました。9月は例年新規顧客の流入が多い月ということもあり、それをさらに後押しするべく、新規顧客向けの来店促進キャンペーンやスタッフ向けのコンクールを実施したことにより、当中間連結会計期間では、新規顧客の来店数は前年同期比104.0%となりました。加えて新規顧客向けの酵素洗顔料の増量キャンペーン等を行ったことにより、新規顧客の購入単価は前年同期比113.1%となり、新規顧客に対する売上高は111.0%となりました。なお、キャンペーンやコンクールが功を奏し、9月の新規顧客への売上高は、単月ではコロナ禍前の2020年3月期以降で、最高の売上高となりました。既存顧客の継続数^{*2}は、採用難等による店舗スタッフの減少が大きく響き、直営店舗での接客数が横ばい傾向にあるため、前年同期比95.0%となりました。継続顧客に対する購入単価はリニューアル販売の効果もあり前年同期比105.3%となったものの、売上高を押し上げるまでには至らず、継続顧客に対する売上高は、前年同期比100.0%となりました。前年同期の2023年9月は2023年10月に会員規約の一部改正を予定していたこともあり、駆け込み需要により売上高が例年に比べて高水準となっております。

この結果、直営店舗における売上高は4,001,947千円(前年同期比1.0%増)となりました。前年同期に対して微増ではあるものの、第1四半期に比べ、当第2四半期は新規顧客への売上高は27.7%増となり、直営店舗全体での売上高は12.8%増と季節性の増減を除いても売上高は増加傾向にあります。

連結子会社のジャフマックに関しては、前期の製品の自主回収を受け、新たな事業計画を作成し、事業の再拡大に向け取り組んでまいりました。飲料製品の当初の販売再開計画に対して、製品の開発や調整に時間を要したことにより、若干の遅れは発生したものの、7月には「濃縮ザクロジュース」を、9月には発酵飲料である「乳酸菌発酵カシス」を発売いたしました。また、再発防止の取り組みとして、アルコール分析システムを導入いたしました。製造ロットごとにアルコール検査を行うことで、お客様に安心してお召し上がりいただけるよう万全な体制をとってまいります。当第3四半期以降におきましては、当初の販売再開計画にはない、追加の新製品の発売を予定していることにより、通期での計画達成を見込んでおります。引き続き事業の再拡大に向け取り組んでまいります。

この結果、当中間連結会計期間における連結売上高は4,311,994千円(前年同期比1.7%減)となりました。利益面におきましては、ブランディングプロジェクト関連の費用及び六本木本社ビルへの本社機能の移転費用等を計

上したこともあり、営業損失は11,962千円（前年同期は営業利益111,978千円）となり、経常損失は12,588千円（前年同期は経常利益112,444千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は61,112千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益69,705千円）となりました。

当中間連結会計期間では、連結売上高が前年同期を割り込む結果となったものの、当第1四半期の3ヶ月間では前年同期比4.2%減であったのに対して、当第2四半期の3ヶ月間では前年同期比0.6%増と改善しております。利益面に関しましても、当第1四半期の3ヶ月間では営業損失85,273千円であったのに対して、当第2四半期の3ヶ月間では営業利益73,310千円とおおよそ当初想定通りの黒字となっております。以上の結果を鑑み、業績予想は当初想定を据え置きとしております。

※1 共奏美容

：揺らぎを安定、そして調和させてビューティーリズムを整えることがシーボンの考える「共奏美容」です。3つのFACIALIST®（化粧品・人・サロン）がおお客様とのコミュニケーションから、共に美しい作品を奏でるように、健やかで美しい肌を育んでいくという想いが込められています。

※2 継続数

：1ヵ月に1回以上来店のあるお客様ののべ人数

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当中間連結会計期間末の流動資産は4,701,734千円となり、前連結会計年度末に比べ812,056千円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少（前連結会計年度末比945,235千円減）、商品及び製品の減少（前連結会計年度末比24,222千円減）があった一方で、その他流動資産の増加（前連結会計年度末比166,771千円増）によるものであります。

(固定資産)

当中間連結会計期間末の固定資産は3,824,444千円となり、前連結会計年度末に比べ529,529千円増加いたしました。その主な要因は、建物及び構築物の増加（前連結会計年度末比1,352,798千円増）があった一方で、その他有形固定資産の減少（前連結会計年度末比776,753千円減）、投資その他の資産の減少（前連結会計年度末比38,053千円減）によるものであります。

(流動負債)

当中間連結会計期間末の流動負債は2,516,793千円となり、前連結会計年度末に比べ176,084千円減少いたしました。その主な要因は、流動負債その他の減少（前連結会計年度末比42,930千円減）、契約負債の減少（前連結会計年度末比102,699千円減）によるものであります。

(固定負債)

当中間連結会計期間末の固定負債は441,643千円となり、前連結会計年度末に比べ14,327千円減少いたしました。その主な要因は、資産除去債務の減少（前連結会計年度末比8,939千円減）、固定負債その他の減少（前連結会計年度末比5,388千円減）によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産は5,567,742千円となり、前連結会計年度末に比べ92,115千円減少いたしました。その主な要因は、利益剰余金の減少（前連結会計年度末比103,917千円減）によるものであります。

この結果、自己資本比率は65.3%（前連結会計年度末は64.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前中間純損失が20,194千円となった他、有形固定資産の取得による支出等により、前中間連結会計期間末に比べ1,128,926千円減少し、当中間連結会計期間末には2,688,438千円となりました。

当中間連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間末において、営業活動の結果使用した資金は234,291円となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失20,194千円、減価償却費73,046千円、未払消費税等の減少43,060千円、契約負債の減少102,699千円、売上債権の増加10,617千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間末において、投資活動の結果使用した資金は666,572千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出660,366千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間末において、財務活動の結果使用した資金は47,078千円となりました。これは主に、配当金の支払額42,833千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月9日付「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,633,673	2,688,438
受取手形及び売掛金	842,074	852,692
商品及び製品	425,734	401,511
仕掛品	56,818	39,399
原材料及び貯蔵品	426,163	423,704
その他	129,444	296,216
貸倒引当金	△118	△227
流動資産合計	5,513,791	4,701,734
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	726,356	2,079,154
土地	244,827	244,827
その他（純額）	976,755	200,001
有形固定資産合計	1,947,938	2,523,983
無形固定資産	49,808	41,346
投資その他の資産		
その他	1,320,168	1,282,114
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	1,297,168	1,259,114
固定資産合計	3,294,915	3,824,444
資産合計	8,808,706	8,526,179
負債の部		
流動負債		
買掛金	89,114	64,199
1年内返済予定の長期借入金	2,900	—
未払法人税等	83,880	60,469
契約負債	1,714,498	1,611,799
資産除去債務	1,802	22,572
その他	800,682	757,752
流動負債合計	2,692,878	2,516,793
固定負債		
資産除去債務	317,678	308,739
その他	138,292	132,903
固定負債合計	455,971	441,643
負債合計	3,148,849	2,958,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	483,930	483,930
資本剰余金	367,830	367,830
利益剰余金	4,636,048	4,532,131
自己株式	△1,501	△1,501
株主資本合計	5,486,308	5,382,391
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	163,400	170,755
為替換算調整勘定	7,277	11,150
その他の包括利益累計額合計	170,678	181,905
新株予約権	2,871	3,445
純資産合計	5,659,857	5,567,742
負債純資産合計	8,808,706	8,526,179

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	4,386,936	4,311,994
売上原価	1,107,414	1,071,882
売上総利益	3,279,522	3,240,111
販売費及び一般管理費	※ 3,167,543	※ 3,252,074
営業利益又は営業損失 (△)	111,978	△11,962
営業外収益		
受取利息	43	455
受取配当金	2,201	2,927
雇用調整助成金	1,268	—
その他	2,127	2,262
営業外収益合計	5,641	5,646
営業外費用		
支払利息	114	200
社宅等解約損	85	—
為替差損	335	845
支払手数料	2,520	2,499
支払補償費	—	2,240
その他	2,119	485
営業外費用合計	5,174	6,271
経常利益又は経常損失 (△)	112,444	△12,588
特別利益		
固定資産売却益	—	2,475
特別利益合計	—	2,475
特別損失		
固定資産除却損	3,256	8,282
解体撤去費用	8,298	—
その他	—	1,800
特別損失合計	11,554	10,082
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	100,890	△20,194
法人税、住民税及び事業税	31,340	40,852
法人税等調整額	△155	64
法人税等合計	31,184	40,917
中間純利益又は中間純損失 (△)	69,705	△61,112
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	69,705	△61,112

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	69,705	△61,112
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,064	7,354
為替換算調整勘定	2,211	3,873
その他の包括利益合計	△3,853	11,227
中間包括利益	65,852	△49,884
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	65,852	△49,884

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	100,890	△20,194
減価償却費	65,200	73,046
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△23	109
受取利息及び受取配当金	△2,245	△3,383
支払利息	114	200
為替差損益(△は益)	337	845
雇用調整助成金	△1,268	—
支払補償費	—	2,240
解体撤去費用	8,298	—
固定資産除却損	3,256	8,282
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△2,475
売上債権の増減額(△は増加)	△149,752	△10,617
棚卸資産の増減額(△は増加)	32,674	44,326
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	△82,117
仕入債務の増減額(△は減少)	△35,375	△24,915
前払費用の増減額(△は増加)	△16,762	△47,591
未払金の増減額(△は減少)	△52,269	△14,440
未払消費税等の増減額(△は減少)	△39,132	△43,060
長期未払金の増減額(△は減少)	△6,489	△3,971
契約負債の増減額(△は減少)	62,021	△102,699
その他	9,973	57,488
小計	△20,552	△168,927
利息及び配当金の受取額	2,245	3,811
利息の支払額	△114	△200
助成金の受取額	37,252	—
補償金の支払額	△43,180	△3,360
法人税等の支払額	△57,824	△65,613
営業活動によるキャッシュ・フロー	△82,174	△234,291
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△15,013	—
定期預金の払戻による収入	15,013	—
有形固定資産の取得による支出	△53,345	△660,366
有形固定資産の売却による収入	—	275
有形固定資産の解体による支出	△8,298	—
無形固定資産の取得による支出	—	△2,887
敷金及び保証金の差入による支出	△516	△5,360
敷金及び保証金の回収による収入	687	5,696
長期前払費用の取得による支出	△2,716	△2,192
その他	—	△1,736
投資活動によるキャッシュ・フロー	△64,189	△666,572
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△2,900	△2,900
配当金の支払額	△375	△42,833
リース債務の返済による支出	△1,613	△1,344
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,888	△47,078
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,596	2,707
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△149,656	△945,235
現金及び現金同等物の期首残高	3,967,021	3,633,673
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 3,817,364	※ 2,688,438

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行とコミットメントライン契約を締結しております。

コミットメントライン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円	2,000,000千円
借入実行残高	—	—
差引額	2,000,000	2,000,000

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
従業員給料	1,228,832千円	1,221,780千円
退職給付費用	8,784	8,453

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	3,832,378千円	2,688,438千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△15,013	—
現金及び現金同等物	3,817,364	2,688,438

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループは、化粧品及び医薬部外品の製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。